

第 39 回櫻井健二郎氏記念賞表彰

第 39 回（2023 年度）櫻井健二郎氏記念賞は、受賞題目「量子もつれ光を利用した光量子センシングに関する先駆的研究」に対し、京都大学の竹内繁樹氏に授与された。



第 39 回櫻井健二郎氏記念賞受賞者
竹内繁樹氏

櫻井健二郎氏記念賞は、当協会の理事であった故櫻井健二郎氏が光産業の振興に果たした功績を讃えると共に、光産業および光技術の振興と啓発を図ることを目的として創設したもので、今回の表彰を含め、合計 71 件、延べ 177 名が受賞している。

今年度の櫻井賞は、光産業および光技術の分野において先駆的役割を果たした 2013 年度以降の業績を対象に、応募 6 件の中から厳正な審査により選考された。

上記の表彰は、2024 年 2 月 16 日にリーガロイヤルホテル東京で開催された 2023 年度光産業技術シンポジウムの終了後、同会場にて行われた。

櫻井健二郎氏記念賞委員会の荒川泰彦委員長（東京大学名誉教授）による選考経過報告の後、表彰状、メダル、副賞が受賞者に手渡され、その後、受賞者の竹内繁樹氏から謝辞が述べられた。

受賞題目：量子もつれ光を利用した光量子センシングに関する先駆的研究
受賞者：京都大学 大学院工学研究科 教授 竹内繁樹（たけうち しげき）
受賞理由： 受賞者は、近年、注目を集める量子技術分野、特に量子もつれ光を利用した新たな光量子センシング技術分野の研究に黎明期から携わり、量子もつれ顕微鏡の開発に世界で初めて成功するとともに、量子光断層撮像（QOCT）においても、量子光源の広帯域化により、世界最高分解能 $0.54\ \mu\text{m}$ の量子光子干渉縞を観測することに成功した。さらに、最近では、可視域用のシリコン検出器で赤外分光を可能とする量子赤外分光法の開発においても、顕著な成果を挙げている。 このように、受賞者は、量子技術、特に量子もつれ光を用いた新たな光量子センシング分野において、優れた成果を挙げ、国内外の研究開発を先導してきた。今後、さらに、産業界との連携強化により、光産業技術の今後の発展に貢献するところが大きい優れた業績である。